河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた取組の実効性向上のあり方について
提言概要

別紙1

○河川環境は流域全体における様々な自然条件や活動と密接に関係しており、河川管理者のみの取組で「河川環境の整備と保全」を実現することには限界がある。また、河川は流域の生態系ネットワークの基軸であり、国土全体の生物多様性を支えていることから、河川管理者は流域全体の環境の保全・創出に向けた連携を促進する役割が期待されている。
○河川を基軸とした生態系ネットワークの形成を効果的に進めるためには、関係者が現状や課題を具体的に把握し、共通の目標の下で流域の将来像を共有し、相互に連携しながら取組を進めることが不可欠。
○本提言は、各流域の河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた取組の実効性を高め、**ネイチャーポジティブの実現、さらにはウェルビーイング向上に資する流域づくりを推進するための基本的な方向性**として示すものである。

分析

河川を基軸とした生態系ネットワークの基本的な捉え方

・生態系ネットワークはコア（生息場）・バッファ（緩衝帯）・コリドー（移動経路）の要素で構成される。
・森・里・川・海を一体として捉え、河川区域や行政界を超えた流域圏全体を対象とする。
・生物の移動に加え、水・物質循環や土砂動態も考慮する。
・生態系ネットワークの状況を把握するため、縦断・横断・垂直・流域内・流域をまたぐ・川と人々とのつながりの6類型で体系的に分析・評価することが有効。



手段

グリーンインフラの見える化と保全・創出を通じた生態系ネットワークの形成

・生態系ネットワーク形成の手段として、「生態系ネットワークを形成するグリーンインフラの保全・創出」を軸として、「生態系ネットワークを回復・強化するインフラの整備」、「グリーンインフラの保全、維持管理や利活用を促すソフト施策」を併せて進めることで生態系ネットワークを形成するとともに、多様な社会課題の解決へ貢献し、ウェルビーイングの向上にも寄与することが期待される。
・流域の生態系ネットワーク形成の基盤となるグリーンインフラを見える化し、その現況と課題、将来的に強化すべき箇所について、流域関係者全体で認識を共有することが重要。その際、河川・流域のグリーンインフラが生物の生息基盤、水資源保全、雨水・流水の貯留・浸透、文化・経済的基盤などの多様な効果を発揮することを共有しながら、グリーンインフラの保全・創出を進めていくことが重要。

推進体制

流域目標設定の考え方

・「生息場を量・質ともに確保」、「生息場同士をつなぐ」、「ネットワーク全体の効果を高める」の3つの視点を基本とする。
・流域関係者が現状と課題を把握したうえで、流域で共有できるストーリーを構築し、目標を設定・共有して取組を進めることが重要。

関係者連携の考え方

・流域の多様な主体が生態系ネットワークの現状や課題、目標像及び取組の方向性、互いの役割や価値を共有しながら連携を進めることが望まれる。河川管理者が中心的な役割を果たしつつ、既存の流域連携の枠組みも活用し、取組の実効性を高めていくべき。

今後の知見の充実が望まれる事項

・「水・物質循環及び土砂動態の考慮」、「時間軸・気候変動を踏まえた管理」、「多様な主体との連携強化」等